

第三回「北越雪譜」の怪異～新潟の民俗と妖怪～

新潟妖怪研究所所長 高橋郁丸

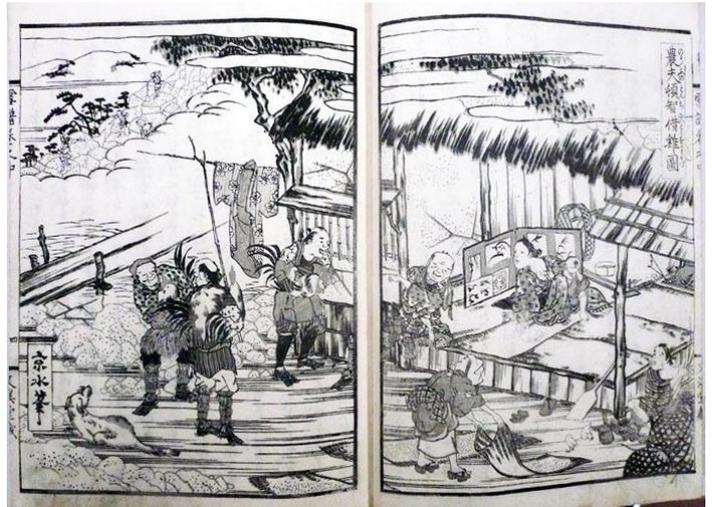
1. 雪とくらし

^{だんち}暖地の人 ^{ちる}花の散に比べて ^{びしょう}美賞する ^{ふぶき}雪吹と ^{ことなる}其異 こと、^{たのしむ}潮干に遊びて ^{つなみ}楽と ^{おぼれ}洪濤に溺て
^{くるしむ}苦との如し。雪国の難儀暖地の人おもひはかるべし。連日の晴天も一時に ^{くじく}変じて雪吹と
 なるは雪中の常也。其力樹を抜き屋を折。

雪意 → たけまはり

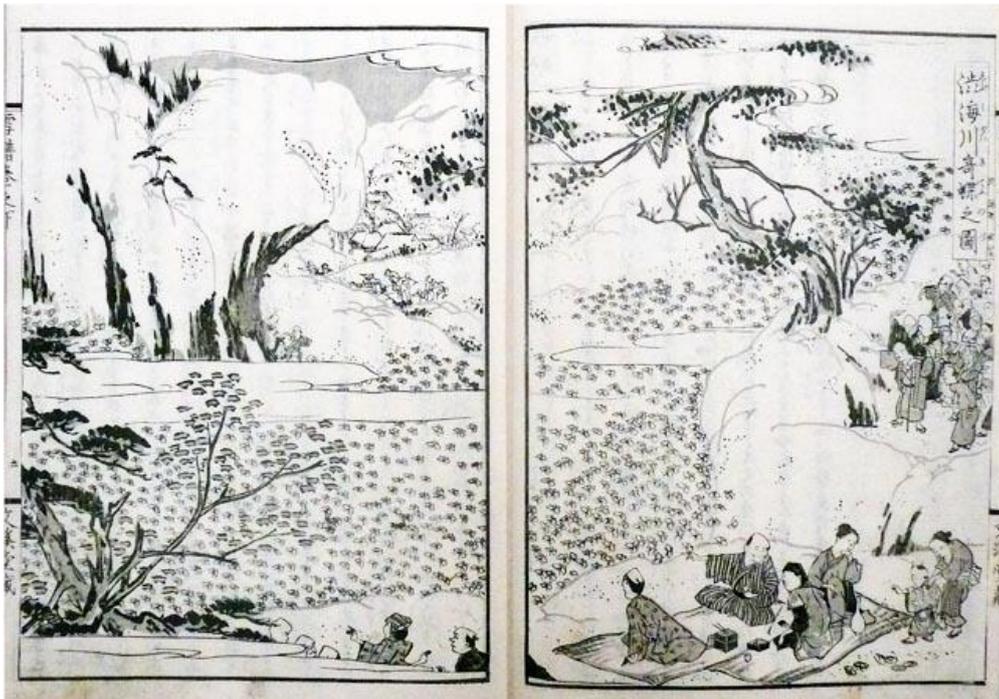
天気朦朧たる事数日にして遠近の高山に
^{はく}白を点じて雪を ^み観せしむ。これを ^{さとことば}里言に
^{たけまわり}嶽廻といふ。又海ある所は海鳴り、山ふか
 き処は山なる。遠雷の如し。これを里言に洞
 鳴りといふ。これを見これを聞て、雪の遠か
 らざるをしる。

雪崩による行方不明者を鶏で探す



渋海川のさかべったう

春の彼岸のころ、幾百万の白蝶が渋海川の上を飛ぶ。川下より川上のほうへ飛び、その様子は
 花吹雪のようである。朝から夕べまで川が見えないほど川上へ続いて行くが、夕方になると水面
 に落ちて流れていく様子が白布を流すようだった。天明の洪水の後、たえた。

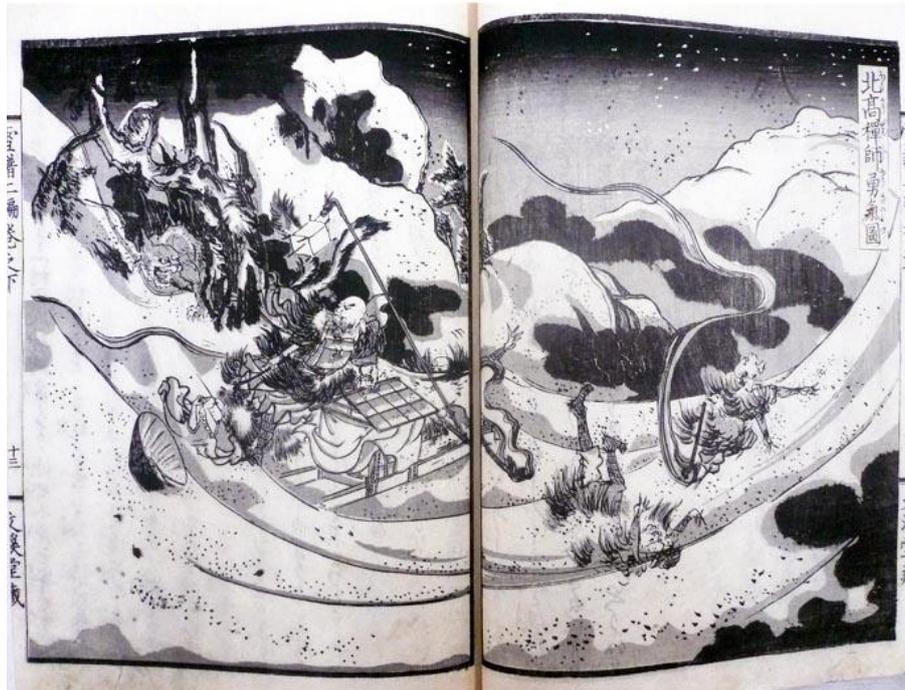


2. 妖しい伝説の記録

化石溪 小出在の羽川。腐った蚕が一夜にして石になった。
 地獄谷の火 桜谷と呼ばれた谷。地火を利用し湯屋に。
 無縫塔 村松の永谷寺。住職の死の前に石が出現する。「此の淵に霊ありて天然の死を示すなるべし」
 夜光玉 吉田大鳥川より夜光の玉が見つかる。
 狐・泊り山の大猫 雪山に丸盆ほどの大きさの猫の足跡あり。
 雪中の幽霊 寒念仏の行者に幽霊が救いを求める。
 龍燈 鎧潟、八海山の池で、決まった日に水上に火が燃える。



北高和尚 (火車)



異獣



3.雪の中の信仰

御機屋の靈威

生業にまつわる信仰と伝承



小正月行事(餅花・サイノカミ・鳥追い)

年中行事に関わる信仰と伝承



4.妖怪伝説は、信仰やくらしの伝承に密接に関係している。

伝説を再確認すると、まだ知らない妖怪と出会えるかもしれません。